



甲府市 薬剤師会 だより

2020年12月

公益社団法人 甲府市薬剤師会
〒400-0857 甲府市幸町14-6
電話番号055-236-5200
FAX番号055-236-5201

皆様の健やかな暮らしを願って

第11号

「漢方」について③

アトム薬局 大里店 杉野 二三

寒気が日増しにつのり、冷え込みの厳しい季節になって来ました。こんな時期は風邪などの感染症にかかりやすくなり、解熱鎮痛剤や総合感冒剤を服用される方も多いと思います。これらのお薬はアラキドン酸カスケード阻害作用により直ぐに熱を下げるので、即効性があると思われています。しかし、免疫細胞であるマクロファージが活性化して発熱しているところを遮断してしまうため、返って回復を遅らせてしまうことがあるのです。一方、葛根湯は、インターロイキン(IL)-1 α の産

生抑制作用による解熱効果に加えIL-12、IFN- α の産生誘導作用により、肺炎などの炎症を限局化・軽症化し、さらに全身性のサイトカインの過剰反応を抑制して軽症化させることが分かっています。つまり葛根湯は解熱しながら免疫力を向上させているので、治りが早いと言えます。このような治療は2000年以上前から確立されており、急性熱病と伝染病に対する治療法が

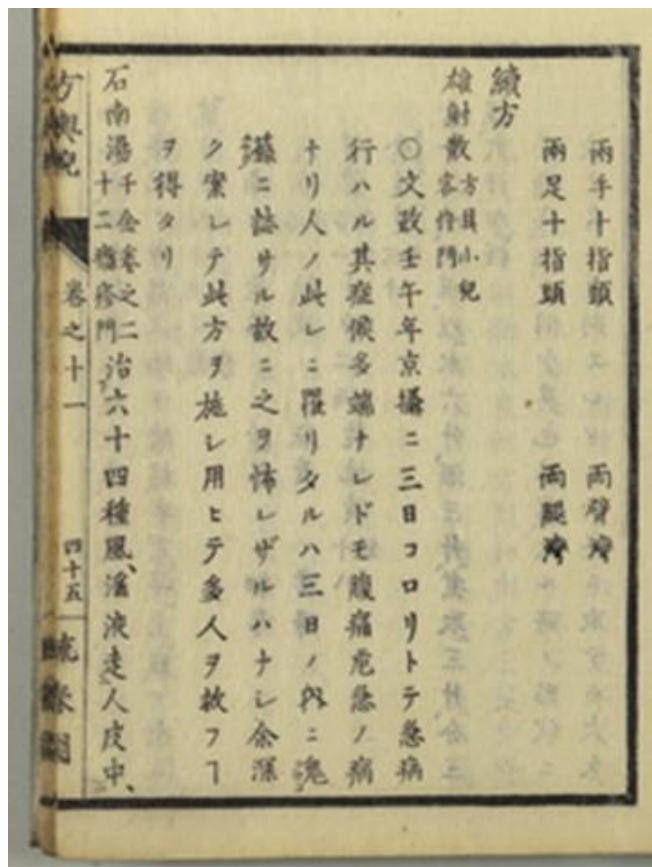
記された『傷寒論』には、病位*によって分類された診断方法や処方が載せられています。現代のように、検査データに頼った治療とは違い、四診*をベースとした処方になります。華岡流手術道具一式 「医は仁術」イベント会場にて



日本に漢方が伝来したのは遣隋使・遣唐使の頃、以降日本独自の発展を遂げ、江戸時代には最盛期を迎えますが、その時代には世界最先端の治療が行われていたと言われていいます。

それは、世界で初めて全身麻酔下で行った外科手術で有名な華岡青洲や、母子ともに守る目的で鉗子を発明した産科の賀川玄悦などの医師の活躍があったからだと思えます。更に、『校正方輿輓（こうせいほうよげい）』を著した有持桂里によりますと、

○文政壬午年京撰に三日コロリとて急病行はる。其症候多端なれども腹痛気急の病なり。人の此れに罹りたるは三



日の内に鬼籙（クワコチヤウ過去帳）に誌（しる）さる故に之を恐れざるはなし。余深く案じて此方を施し用ひて多人を救ふ事を得たり。

とあり、雄射散でコレラ患者を数多く治療したと書かれています。緒方洪庵が述べているように、江戸時代のコレラ流行期は今の状況と同様、ひたすら家に閉じこもっていただけだと思われがちですが、実際は治療できる医師がおり、多くの人を治癒していたのです。

令和時代の疫病、新型コロナウイルスが猛威を奮っていますが、数千もの変異が確認されており、治療法は困難を極めています。最近の研究では、コロナウイルス患者の症状は肺炎や重症化するとサイトカインストームによる多臓器不全などをおこすと言われており、古方で言うところの病位は厥陰病に分類される症状です。

漢方治療はウイルスそのものが標的ではなく、ウイルスを攻撃する生体防御反応を向上させる治療法ですので、最前線の治

療薬として活躍できる漢方治療に注目すべき時ではないかと思えます。

*病位…疾患の経過を表す概念で、初期から末期まで6つあり、太陽病→小陽病→陽明病→太陰病→少陰病→厥陰（けっちん）病の順に経過を辿る。

*四診…漢方独特の診察方法で「望診」・「脈診」・「腹診」・「舌診」がある。

「第3回 薬物乱用防止 キャンペーン」 を開催しました。

（公社）甲府市薬剤師会
医薬・環境情報委員会

令和2年10月18日（日）山梨県立図書館にて第3回薬物乱用防止キャンペーンを行いました。厚生労働省が各都道府県との共催で実施している「麻薬・覚醒剤乱用防止運動」（10月1日（木）から11月30日（月）までの2ヵ月間）に合わせて、（公社）甲府市薬剤師会では医薬・環境情報委員が令和2年10月18日（日）山梨県立図書館にて『第3回薬物乱用防止キャンペーン』を行いました。

参加者・関係者ともにマスクを着用、また会場入口に非接触型体温計を設置したりする等、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの実施となりました。



当初の予定では昨年度と同様に『薬物乱用防止啓発キャラバンカー』の配置を予定していましたが、新型コロナウイルス発生状況、見学時の車内における適切な距離の確保が難しいこと等を踏まえ当委員会で検討した結果、残念ながら今回はキャラバンカーの設置は行わないこととしました。



山梨県立図書館交流ルームでは薬物乱用防止啓発パネルを展示し、来場者からの違法薬物に関する質問等に当会薬剤師が答えていきました。

また、今回は甲府市内の小・中学校（約40校）へキャンペーン開催の案内と一緒に薬物乱用防止教育の冊子（薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」愛する自分を大切に）を配布し生徒が閲覧しやすい場所へ置いてもらえるようお願いしました。

有名人などの違法薬物に関係するニュースが後を絶たないのは大変嘆かわしいことです。私たち薬剤師は専門家として、今回のキャンペーンをとおしてこのような薬物の危険性・有害性をより多くの市民の皆様にご存知いただくことで薬物乱用に対する意識を高めてもらい、薬物乱用のない環境で安心・安全に生活してもらいたいと思っています。薬物乱用は絶対にしてはいけないということ、薬物乱用をなくすために薬物に対する正しい知識をもちましょう。

ご来場していただきました皆様、協力して下さった薬剤師の方々、本当にありがとうございました。

（公社）甲府市薬剤師会 医薬・環境情報委員会ではこれからも幅広い層の市民の方々に参加していただけるように開催テーマを委員みんなで検討し、有意義なキャンペーン活動等を行っていきたくと考えています。

「まちかど よろず相談薬局」

（公社）甲府市薬剤師会

医療保険委員会 渡邊 泉



こんな看板見かけたことありませんか？

薬局がよろず（色々なことを気軽に相談できる）相談窓口であることを市民の皆様にご広く知ってもらい、日ごろから気軽に立ち寄ることのできる場所であることを理解してもらうことを目的に（一社）山梨県薬剤師会が認定しています。

それぞれの地域の情報拠点として、在宅療養における役割を担うべく、医薬品や健康についての相談はもとより、地域住民や多職種からの様々な相談事項に対応できるように薬局を整備することを目的に事業が実施されています。

「まちかどよろず相談薬局」として認定されるには、多職種（介護支援専門員・社

会福祉士・管理栄養士等) への理解を深めるためにそれぞれの専門性についての講演と少人数での討論形式の症例検討による研修会を受講する必要があります。

これからの薬局のあるべき姿として、医療・介護の関係者ばかりではなく地域住民が気軽に集え、身の回りのちょっとしたことでも相談ができる場所となるべく多職種連携に積極的に取り組むことや、かかりつけ薬剤師・薬局が、地域住民が主体となる地域社会活動に参画する仕組みの構築が必要ではないかとの考えがもとになっています

昨年度実施された研修会により現在甲府市内では32件が「まちかどよろず相談薬局」として認定されています。

(一社)山梨県薬剤師会では本年度も認定に係る研修会を実施する予定のため、これから標記の看板を目にする機会も多くなると思います。

今度「まちかどよろず相談薬局」の看板を注意して探してみてください。普段ご利用のかかりつけ薬局にも設置してあるかもしれません。目印の看板があれば研修を受けた薬剤師がいるので将来きっと

相談にのってもらえると思います。

甲府市薬剤師会 これからのイベント情報

『 中高生公開講座 』

開催のお知らせ

中高生公開講座を開催いたします。当日は、東京薬科大学より講師の先生をお招きしご講演いただく予定です。

講演会終了後には現役薬剤師による個別相談の時間を予定しています。薬剤師、薬学部に興味のある中高生はぜひご参加ください。(要申込)

令和3年2月7日(日)

山梨県立図書館多目的ホール

開場：13時45分

開始：14時00分～

個別相談：15時20分～

『 市民向け講演会開催 』

のお知らせ

株式会社ツムラ様との共催により市民向け講演会を開催いたします。(要申込)

令和3年3月20日(土祝)

山梨県立図書館多目的ホール

開場：13時45分

開始：14時00分～

*新型コロナウイルス感染症防止対策のため人数制限がございます。申込制。詳細は甲府市薬剤師会ホームページをご確認ください。



アトム薬局大里店 杉野 二三 先生
の上司が書いた「あまびえ」

第11号 2020年12月7日

発行/(公社)甲府市薬剤師会

編集担当/会報編集委員会